

「美しい心もち 自分から学び やりぬく子」の育成  
～元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子～

鳥栖市教育プラン めざす子ども像

ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、よりよい社会の形成者としての資質能力をもった「鳥栖っ子」

- ◇ 確かな学力、豊かな心、健やかな体など、生きる力を身につけた人
- ◇ 志を持ち、自分を信じて、自分の力でやり遂げることができる自立した人
- ◇ ふるさと鳥栖や日本の自然、歴史、伝統、文化を愛し守り伝えることができる人
- ◇ 命の尊さを知り、相手の気持ちや考えに心を傾け行動することができる人

【田代中校区小中一貫教育 共通教育目標】

一人ひとりが夢や希望をもち 心豊かに学び続ける児童生徒の育成  
～15の春にすてきな花を咲かせよう～



めざす若葉っ子の姿と令和8年度重点目標

やさしく

思いやりの心もち、  
自分も相手も大切にできる子

- ◎「承認・賞賛」の具体的な取組
- ◎思いやりの心の育成に向けた取組
- ◎教育相談体制づくりの推進
- ◎インクルーシブ教育の視点に基づく児童支援

かしこく

自立した学習者として、個の  
追求と知の共創を楽しむ子

- ◎共通の授業スタイルと学び方（若葉授業）の実践
- ◎学力向上のための取組
- ◎インクルーシブ教育の視点に基づく学習環境づくり・授業づくりの充実

ただしく

ものごとを前向きにとらえ、正しく、  
ねばり強くやりぬく元気な子

- ◎相手に伝わるあいさつの習慣化
- ◎自己肯定感を高める体験活動の充実
- ◎健康教育、食育の充実
- ◎外遊び、運動の推奨
- ◎安全指導の充実

「元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子」を支える

めざす学校の姿

- ◇人と人(子どもを中心に教師、保護者、地域)がつながり、誰もが安心して過ごせる学校
- ◇じっくりと子どもに向き合い、子どもの思いを大切にする学校
- ◇「チーム学校」を目指し、一人一人が強みを生かして組織的に動ける学校

めざす教師の姿

- ◇子ども一人一人のよさを見つけ伸ばす教師（ほめることのできる教師）
- ◇自己研鑽を続け、授業力を高める教師（楽しくてわかる授業を創ることができる教師）
- ◇「チーム」として協働し、学校力を高める教師（いろんな人と繋がろうとする教師）

学校・家庭・地域社会との連携・協働による実現を目指す

## 若葉小学校教育プラン

### 1 めざす学校の姿

- (1) 人と人（子どもを中心に教師、保護者、地域）がつながり、誰もが安心して過ごせる学校
  - ア 子どもたちが「失敗しても大丈夫」と思える雰囲気づくり。（心理的安全）
  - イ 地域のボランティアや外部人材が校内に入り、多様な大人との接点を持つ。（開かれた学校）
  - ウ 挨拶や何気ない会話を大切にし、互いの存在を認め合う文化の定着。（共感的な対話）
- (2) じっくりと子どもに向き合い、子どもの思いを大切にする学校
  - ア 教師がすぐに答えを与えるのではなく、子どもが試行錯誤する時間を保障する。  
（待つことができる教師）
  - イ 一律の指導ではなく、子どもの興味・関心や特性に応じた柔軟な学びの提供。  
（個別最適な学び）
  - ウ 日常のつぶやきや行動から子どもの本音を汲み取る。（子どもの声に耳を傾ける）
- (3) 「チーム学校」を目指し、一人一人が強みを生かして組織的に動ける学校
  - ア 各教職員が持つ特技や ICT スキル、対人折衝能力などを共有し、一人で抱え込まず、補い合うチーム（個の強みを組織の財産に変換）
  - イ 事務作業や情報共有をスマートに行い、子どもと向き合う時間を生み出す。  
（スマート校務で子ども時間の創出）
  - ウ 若手・中堅・ベテランのアイデアが融合する風通しのよい職員室（何でも相談できる職員室）

### 2 めざす教師の姿

- (1) 子ども一人一人の良さを見つけ伸ばす教師（ほめることのできる教師）
  - ア 授業、行事の中にほめどころをたくさん作る。（子どもの出番をつくる（子どもを主役に））
  - イ 子どものよさを見つけようとする意識をもつ。  
（子どものいいところを見つけ（当たり前を当たり前でできるすばらしさ））
  - ウ 具体的な行動の事実を伝えほめ、価値づける。（努力の跡を具体的に評価）
- (2) 自己研鑽を続け、授業力を高める教師（楽しくてわかる授業を創ることができる教師）
  - ア 知的好奇心を刺激する教材研究と導入の工夫（「はてな」の種、「おや？」スイッチ）
  - イ 子どもの笑顔を思い描いた授業のデザイン（子どもの言葉でつくる授業）
  - ウ 安心して学べる学級づくり（「わからない」が言える安心感、間違いを歓迎する空気感）
- (3) 「チーム」として協働し、学校力を高める教師（いろいろな人と繋がろうとする教師）
  - ア 「自分のクラスのこと自分」で」という抱え込みを捨て、同僚と知恵を共有する姿勢をもつ。  
（「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」と「ごっそう（雑談・相談）」）
  - イ 地域や外部人材、他職種との連携・活用（地域人材の活用、SC、SSW、スクールロイヤーの活用）

### 3 めざす若葉っ子の姿と令和8年度重点目標

- (1) 思いやりの心もち、自分も相手も大切にできる子（豊かな心部会）
  - ア 「承認・賞賛」の具体的な取組
    - (ア) 日常的に相手を思いやる言葉（ふわふわ言葉）を意識して使えるよう促し、一人ひとりが自分のよさを大切にする心を育てていく。
    - (イ) 子ども同士で素敵などころを見つけ合う「子どものほめほめ（自他のよさ見つけ）」を実施し、良好な人間関係づくりと自尊感情の向上につなげる。
    - (ウ) 家庭からの「がんばったねカード」を通して子どもたちに温かな声を届けもらい、保護者と連携しながら、子どもたちの成長を支える啓発活動を推進していく。
  - イ 思いやりの心の育成に向けた取組
    - (ア) 道徳教育の充実  
読み物資料をなぞるだけの授業から脱却し、「自分ならどうするか」「正解が一つでない問い」についてペアワークやグループ討議などを取り入れた多角的・多面的な視点で考え、議論する道徳授業を推進する。
    - (イ) 特別支援教育の充実  
特別支援学級8学級、子ども46名が在籍する本校では、知的・情緒学級に各1名のコーディネーターを配置し、担任間の密な情報共有と連携協力を図る組織体制を構築する。5名の支

援員を含む全職員が「チーム学校」として、子ども一人一人のサインを早期に捉え、迅速かつ温かな支援を展開する。

また、通常学級に在籍する ADHD や LD、言語障害等の児童に対しては、「ことば」と「まなび」の両通級指導教室にて専門的な指導を行う。自立活動を主軸とした指導により、学習上・生活上の困難を改善・克服し、社会的な自立を目指す。個別の教育的ニーズに応え、誰もが安心して自分らしく学べる環境を創造する。

#### (ウ) 人権・同和教育の推進

人権・同和教育は、学校の教育活動全体を通じて展開することを基本とする。各教科等の特性に応じ、同和問題をはじめとする人権課題に関する理解を深めるとともに、人権尊重の精神を涵養し、実践的な態度の育成を目指す。また、「いじめを許さない、一人ひとりが輝く学校づくり」を掲げ、組織的な未然防止と早期発見を徹底し、家庭・地域と連携して、児童が安心して学べる環境を確立する。

#### ウ 教育相談体制づくりの推進

(ア) 一人で抱え込まず「チーム学校」として機能する組織的な教育相談体制を構築する。全教職員による「気になる子」の早期発見と情報共有を徹底し、ケース会議等を通じて支援の方向性と役割分担を明確化する。さらに、スクールカウンセラーの専門的助言や、スクールソーシャルワーカー、スチューデントサポートフェイス等の外部機関と連携することで、児童のサインを的確に捉え、迅速かつ多角的な支援を展開する。

#### エ インクルーシブ教育の視点に基づく児童支援

- (ア) 視覚的な支援やタブレット端末の活用により、困難さを抱える子どもも共に学べる環境を整え、ユニバーサルデザインの視点に立った「みんなにとって分かりやすい授業」を実現する。
- (イ) 合理的配慮について共通理解を図る。

### (2) 自立した学習者として、個の追求と知の共創を楽しむ子（確かな学び部会）

#### ア 共通の授業スタイルと学び方（若葉授業）の実践

- (ア) 教員の授業力向上と児童の確かな学力の定着を目指し、「授業づくりの1・2・3」を活用した「若葉授業」の共通実践を推進する。授業の基本スタイルを全教職員で共有し、継続的に実践することで、指導の質の標準化を図る。特に、児童が主体的に学ぶための「見通し」の持たせ方や、多様な考えを深め合う「友達タイム」、学習の振り返りを充実させ、授業改善に取り組む。
- (イ) 児童が自らの学びを調整し、自立して学習に取り組む姿を目指し、校内研究を推進する。個々の興味・関心や習熟度に応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と高め合う「協働的な学び」を授業の核に据え、不断の授業改善に取り組む。

#### イ 学力向上のための取組

- (ア) 全校共通の「学習の約束」を徹底し、聴く姿勢や発言のルールを整えることで、全員が安心して学習活動に取り組むことができる「学習の構え」を確立する。
- (イ) 家庭でどのような学習をするのかを示した「家庭学習のしおり」を通じて、児童が自分の学びを振り返り、自律的に机に向かう習慣を育成する
- (ウ) 読書は学びの土台となる「言葉の力」を養うものである。読書は単に知識を増やすのみならず、他者とのコミュニケーションや相手の気持ちを推し量る「共感力」を高めると言われている。学校だけではなく、家庭においても読書習慣が身に付くよう呼びかける。

#### ウ インクルーシブ教育の視点に基づく学習環境づくり・授業づくりの充実

- (ア) 前面掲示を厳選し、視覚的なノイズを排除することで、子どもが学習活動に集中できる「整った教室環境」を構築する。また、テニスボールの活用等により静穏な学習環境を保障する。
- (イ) 1時間の授業内容を視覚的・構造的にとらえることができる板書を全学級で工夫し、子どもが自力で思考を振り返ることができる環境を整える。
- (ウ) 単元の全体計画（ロードマップ）を提示し、子どもが自らの進捗を確認しながら、目的意識をもって「自立して学べる」工夫を凝らす。

(3) ものごとを前向きにとらえ、正しく、ねばり強くやりぬく元気な子（健やかな育ち部会）

ア 相手に伝わるあいさつの習慣化

(ア) 毎月の生活目標に「あいさつ」に関する項目を継続的に設定することで自分からあいさつする習慣をつけさせる。また、児童会や学級での振り返りを通して、形式的なあいさつから「心を通わせるあいさつ」への質的向上を図る。さらに、家庭・地域とも連携し、あいさつあふれるまちづくりに貢献する。

(イ) 親切にしてもらったり、うれしいことがあったりした際に、素直に「ありがとう」を伝える文化を醸成する。日頃の何気ない善行を価値づけ、認め合うことで学級・学校全体を「優しさが循環する場所」にする。

イ 自己肯定感を高める体験活動の充実

(ア) 子どもたちが学校外の多様な大人と関わり、認められる経験は、「自分は社会の一員として大切にされている」「役に立っている」という自己肯定感の向上に直結する。そのため、学習や技能の支援、総合学習等の講師として、外部人材及び地域人材を積極的に活用する。

ウ 健康教育、食育の充実

(ア) 早寝・早起き・朝ごはんの徹底を図り、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

(イ) 「いただきます」「ごちそうさま」の意味を再確認し、食に関わる人々への感謝、命をいただくことへの意識を高める。

(ウ) 教科「日本語」をベースに箸の持ち方や器の並べ方など、日本の伝統的な食事のマナーを指導する。

エ 外遊び、運動の推奨

(ア) 休み時間、外遊びを好む児童がとても多い。体力向上、運動習慣の形成の面からも継続して外遊びを推奨していく。

(イ) 学校で設定した体力向上プランに従い、ドッジボール大会や縄跳び大会など児童会で企画し、実施することで運動の楽しさを味わわせる。

オ 安全指導の充実

(ア) 交通教室、各種避難訓練を通して、「自分の身は自分で守る」という意識を育む。防犯ブザーの携行、ヘルメット着用を徹底するとともに、教職員の危機管理能力の向上に努め、組織的な対応訓練を繰り返すことで、事故や不審者事案を未然に防ぐ安全な教育環境を整備する。また、登下校の安全が地域のボランティアによって支えられていることを再認識させ、地域の方々への感謝の心を醸成する。